

第9回 気高地域学校統合準備委員会概要について

- 1 日 時 令和4年1月13日(木) 19時 ~ 20時30分
- 2 会 場 気高町総合支所
- 3 出席者 【委員】17名 【アドバイザー】1名
【気高町総合支所】職員2名
【教育委員会事務局(教育総務課校区審議室)】職員2名 欠席2名

4 報告事項

(1) 前回の議事概要について

○PTAの中には新規用地を求める声と浜村小跡地で早く開校できるならば、そちらの方がよいという声の双方があった。

○委員に意見表明いただいた結果は、多数が新規用地を取得すべき(13票)というものであったので、その案を中心に検討結果をまとめることとした。

(2) 広報誌の発行について

○浜村小PTAは現在の位置がよいという記述になっているが、全員がそうではない。

○新築であれば統合を待ってもよいという記述があるが、決してそんな意味ではない。早急にというスタンスは変わらない。

5 議 事

(1) 要望事項について

○新規用地を取得することを要望した際、課題となることを挙げて欲しい。

⇒ 事務局回答

- ・周辺施設の統合や共用、集約化は、協議すべき相手が多岐にわたることから、まちづくりを含めた検討を終えてからでないと、教育委員会としての方針決定ができない。期間が伸びれば伸びるほど、新しい学校を全く経験せず卒業していく子どもが増える。子どもたちの教育環境を最優先するという視点では課題がある。
- ・駅周辺ということで要望した場合、多くの児童にとっては今より遠方になることや踏切を超えて通学することになる。今後、保護者となる方に了解が得られるか。
- ・保育園、小学校、中学校がそれぞれ別々の場所になる。
- ・浸水、温泉の泉脈、都市計画、通学路整備などを勘案して、確実に用地の取得ができるか。特にスクールバスの入れる幅の道路を確保することが可能か。
- ・用地取得、造成、新築となれば、当然多額の費用が必要となり、近くに活用可能な施設があるにもかかわらず、駅周辺を選択するための合理的理由が必要となる。市全体の方針や他の地域とのバランスを考慮しても、小学校単独の新築であれば他地域とのバランスをとった施設となる可能性がある。

委員より

○保育園だけがぼつんと残るのは不安である。災害時や引き渡し訓練の際、保護者は三か所をまわることにもなる。

○デメリットもあるだろうが、その分、新しい学校で補えるくらいによさも創出されると思う。どの地域も自分の地域から学校がなくなることについては、さみしい思いもあるはず。浜村小にとっては、今の方が都合がよいという議論ではいけない。

○まちづくりの議論や施設の複合化については、この委員会で議論する範疇を超えている。

○財政的な話を出すのであれば、住民意見を尊重という言葉を使うのがおかしい。新築が難しいなら最初から示しておくべき。

⇒ **事務局回答**

できないというのではなく、実現するためには、他の地域も含めてみんなが納得するような理由を示していきたいということを理解いただきたい。

(2) 検討結果の文言について

委員長より趣旨説明

・前回の委員の意見を受けて原案を作成した。まちづくりも考えながらという意見もあったが、学校づくりがまちづくりそのものであると考える。要望というより、検討結果を市にお返しするものだと考える。改めて4つの校区にはそれぞれの文化があり、それぞれの良さがあると感じている。そういうものが残されつつ融合され新しい気高の文化が創造される拠点となるように、子どもはもちろん、保護者も地域の方も集まりやすい場所に学校を新築するのがよいという結論にしたい。

委員より

○新築に向けてのハードルは極めて高いと思う。本当にそれが実現できるか危惧する。

○概ねよいと思うが、市民に向けて説明できる内容にまとめる必要がある。

○今の交流事業は継続してほしい。それとともに、小中連携も大切。小学校の統合となることで、小中の連携が薄くならないような要望にしたい。

○委員会の任務は学校種と場所を検討することであったので、この内容でよいと思う。これで、一旦区切りとなるわけだが、今後の展開を知りたい。新規用地としても、3年程度の差だと認識しているが、いずれにしても何らかの返答はいただきたい。

⇒ **事務局回答**

今後、教育委員会に諮る。まちづくりも大切だが、まずは子どもの教育環境の充実を早期に実現するという方向は教育委員の方々も同じであろうと思う。今後の鳥取市の方向性など様々なバランスを検討しての判断となるので、要望事項が全てが受け入れられるのは難しいかもしれない。新規用地であれば、どんな学校をどこにつくるかというところから話が始まるので、何年かかるかは不明である。ただし、この委員会に対してなんらかの返事は早期にできると思う。

⇒ **気高支所回答**

中央公民館（コミセン）は更新時期、トレーニングセンターも老朽化している。災害時の避難機能をどうするかについても議論が必要。住民と意見を交わしながら複合化できるものはしていきたい。

6 その他

《次回予定》

○文言を若干修正して、教育長へ提出する。教育委員会からなんらかの返答があった場合、その報告を行い、この委員会を終了することになる。したがって、次回までは少し間が空くと思われるので、現時点で次回開催日を確定することはしない。

地域とともに学校を創る



～気高地域学校統合準備委員会だより～

第9回気高地域学校統合準備委員会を開催しました

第9回委員会の議論について

1月13日、委員17名とアドバイザーの参加のもと、第9回気高地域学校統合準備委員会が開催されました。

前回の委員会の中では、新しい学校の設置位置について、「浜村駅周辺の新規用地で新しい学校づくりを進めてほしい」という意見が多数を占めました。今回の委員会ではすでに方針を決定している学校種も踏まえ作成した、学校の種別及び新設校の設置場所等についての「報告及び要望（案）」について議論を行いました。委員会の中で教育委員会より、市としてはまちづくりや市全体の施設整備の計画との関係も考える必要があること、また新しい用地を取得するにはそれなりの時間がかかることといった説明を受けました。



新しい学校は、これからの地域・社会を担う人材育成にもなるとともに、地域の活性化にもつながるものだと考えています。これからも新しい学校の誕生に向けて、皆さんの後押しをお願いします。

教育委員会への報告及び要望（案）の内容を紹介します 令和4年1月13日時点

【学校種について】

・小中一貫型の学校を実施されている湖南学園の視察などで、小中9年間の義務教育期間を通しての一貫した教育は、子どもたちにとっては様々な面において優れた教育効果があることが分かってきました。

しかし、『まずは、この地域4つの小学校のみの統合』を要望することになりました。

議論のなかで、新しい時代に合った教育の創造に期待したい委員の思いを尊重し、現段階では小学校のみの早期統合を望みますが、将来的には義務教育学校への移行を視野にいれた取組みをお願いしていきます。

【学校の位置について】

・通学の安全面や各地区住民や保護者の思い、この地域のまちづくり等を考慮しながら議論を深め、将来展望を見据えると『JR浜村駅周辺に新規用地を取得され新しい学校づくりを進めていただきたい』といった委員の意見が多数を占めたため、これを要望することとなりました。

～裏面に続きます～

【その他】

・それぞれの地区で長年育まれてきた各小学校の特色の共有はもとより、それらが融合され更なる気高文化への発展が期待されます。また、児童や保護者、地域の大人の方々の協働の取組みによる開かれた学校運営がなされるよう要望することになりました。

・小学生たちが常日頃、安心して安全に通学できる周辺道路等の改善はもとより、児童によっては通学が6キロ以上離れた集落から通う子どももいますので、スクールバス等を用いて子どもたちへの通学の負担を軽減していただくようお願いする予定です。



・迅速に全力で対処いただき、早急な新設統合を進めていただくよう強く要望していく予定です。

議論の内容を紹介します

～第9回気高地域学校統合準備委員会の議論より～

◆ 報告及び要望（案）の内容について

新築に向けてのハードルは極めて高いと思います。本当にそれが実現できるか心配です。



小中連携も大切。小学校の統合となることで、小中の連携が薄くならないようなことも要望していきたいです。

内容は概ねよいと思います。ですが、もう少し市民に向けて説明できる内容にまとめる必要があると思います。



★ 気高中学校区4小学校連携交流事業 ～瑞穂、逢坂小の2年生の交流の様子～



◀ 資料はこちらから

鳥取市公式ホームページ

(気高地域学校統合準備委員会について)

発行：気高地域学校統合準備委員会

事務局：鳥取市教育委員会事務局校区審議室

TEL : (0857) 30- 8405

E-mail : kokushingi@city.tottori.lg.jp